

カーグッズ、最大のお買い物
「後悔しない決断を後押し!」

戦略

タイヤ・チェンジ ストラテジー

PART1

4大タイヤメーカーの
主要ラインアップと注目銘柄

BRIDGESTONE

YOKOHAMA

DUNLOP

GOODYEAR

PART2

ポジショニングマップで紐解く
夏タイヤ・最新ラインアップ

FALKEN

TOYO TIRE

MICHELIN

年々進化を遂げているタイヤ。いまや静粛性やウェット性能が優れているのは当たり前。どれだけその高性能を長持ちさせられるか? 各社が凌ぎを削りあっている状況だ。また、ミニバンやSUVなどカテゴリーに特化したタイヤも増えてきた。多様化が進んでいるだけに、ユーザーの選球眼が問われる時代になってきている。今回の夏タイヤ特集では、そうしたなかで理想の1本を探し出すための有益情報を凝縮してお届けする。

タイヤ選び〜2020春の陣〜

タイヤ選びをするうえで
知っておきたい制度や規格

MがMud(泥、ぬかるみ)、SがSnow(雪、積雪)を意味している。ラジアルタイヤのトレッドパターンを泥道や雪路などでも走破できるようにしたもので、積雪量の少ない地域でオールシーズンタイヤとして活用されている。

3 M+S規格

M+S



第三者機関であるASTMが、極めて厳しい寒冷地でも十分な性能を発揮することが認定された証として刻印されるのがスノーフレックマーク。オールシーズンタイヤでも、サイドウォールにこのマークが刻印されていれば、冬タイヤ規制時にも走行可能なスノータイヤとして認められる。

2

タイヤラベリング制度



日本自動車タイヤ協会(JATMA)が業界自主基準として策定。転がり抵抗性能とウェットグリップ性能の一定の水準を満たすタイヤを「低燃費タイヤ」として認定している。転がり抵抗はAAAからCまで5段階、ウェットグリップ性能はa~dまで4段階で表示されるため、性能を判断する基準になる。